

長崎支所では、1月15日に安全祈願・安全講習会を行いました。安全祈願には従業員16名と長崎地区の理事・監事、並びに県、市、県森連の担当者に出席いただきました。当初は12日に予定しましたが、長崎地方6cmの積雪のため延期していました。そのため、救命救助訓練は長崎消防署の都合がつかず、講習内容を変更して行いました。

◆ 安全祈願

午前9時から長崎支所において、長崎市茂木町の^{もぎ}裳着神社の宮司さんをお願いして執り行いました。裳着神社は、調べてみると、長崎市で一番古い神社で850年以上の歴史があるそうです。ぜひ、神社に参拝したくなりました。

今回の祈願は、神棚の「社」を新しく取り替えたのと併せて、神棚自体も新しく総ひのきで従業員が手作りしました。（神棚の遷宮）神棚は細工も凝っており、素晴らしい出来栄です。宮司さんには、神棚のお祓いと、長崎支所の作業安全を祈願していただきました。

新しい神棚で、「神威」^{しんい}（神様の力）が発揮されることと思います。



神棚は、長崎支所の佐藤晃班長の手作り

◆ 安全講習会

支所から移動し、長崎市市民の森体験館で講習会を行いました。

林業の労働災害死亡事故は、チェーンソーによる伐木作業が一番多く、約6割を占めています。かかり木処理や倒れる方向が変わるなどによる災害が多くなっています。

幸い、当組合では類似の災害は発生していませんが、再度基本に立ち返って安全作業に努める必要があります。

参事と支所長から、当組合の最近の災害事例を基に安全作業の徹底と、伐倒作業の基本について指示しました。



次に、講師の長崎県県央振興局林業課の中山係長から、林業労働災害の現状と災害の防止について話をいただきました。



次に、県森連の草野技師による「伐倒作業における災害防止」について、【林業労働災害未然防止教材】VR 体験シミュレーターを使って、バーチャルリアリティ(VR)の仮想空間での労働災害を疑似体験できるシステムです。

この機械を使って、次の3つのコンテンツを体験してもらいました。

- ①傾斜地における伐木作業中の災害事例(伐倒木が自身にずれ落ちてくる)
- ②かかり木処理作業中の災害事例(元玉切り)
- ③伐木作業中の災害事例(つるがらみ)

実際の作業現場では、絶対に類似の事故を起こさないということを確認しました。



そして、3班に分かれて、VR 体験した3つのコンテンツについてリスクアセスメントを実施し、その結果を「緑の雇用1・2年生」が発表しました。





本日の研修内容を作業現場で活かして、
今年はゼロ災で行こう！

